

令和元年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<p>1 一人一人の児童生徒の尊重</p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていますか。</p>	<p>2 友達への思いやり</p> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>3 道徳・心の教育の充実</p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>【学校から】1一人一人の児童生徒の尊重では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、昨年度に比べて、保護者・生徒・教職員ともに減少がみられた。2友達への思いやりでは、保護者・生徒・教職員ともに昨年度とほぼ同じであった。3道徳・心の教育の充実では、職員の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は減ったが、保護者の割合は昨年度とほぼ同じであった。これらのことから、道徳等の心の教育の充実に基盤に、より一層の生徒一人一人を大切にた指導や対応の徹底を図っていく。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<p>4 意欲的な学習態度</p> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>5 授業力向上</p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>6 ICT活用</p> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】4意欲的な学習態度では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、昨年度と比較し生徒の割合は昨年同様90%を超えており、保護者と教職員の割合も昨年同様80%を超えている。5授業力向上では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、教職員が96%と高く、生徒の割合も86%と昨年度を上回った。6ICT活用では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、保護者と教職員の割合が80%を超えたのに対して、生徒の割合が90%と昨年度とほぼ同じ高い数値を示し、教職員の値を上回っている。校内研等を活用し、今後もICTを活用した授業力の向上に取り組む。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<p>7 健康づくり</p> <p>子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>【学校から】7健康づくりでは、保護者の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が昨年度より向上し、生徒とともに80%を超えた。今後とも健康的な生活づくりのために情報発信していく。</p>

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<p>8 児童生徒理解</p> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>9 いじめや問題への対応</p> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<p>【学校から】8児童生徒理解では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、昨年度と比較し、保護者の割合は向上し80%を超えた。生徒の割合も80%を超え昨年とほぼ同じ値であった。9いじめや問題への対応では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が保護者・生徒・教職員ともに80%を超え昨年度より向上した。相談支援体制では、すべての教職員が日常的に生徒を理解し、自己肯定感を育む指導を継続して行っていく。10学校の支援体制では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、保護者で87%と高い水準を示しており、今後とも情報交換を密に支援体制を築いていく。</p>	

②特別支援教育の推進

<p>10 学校の支援体制</p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>

①子どもたちの身近な安全対策の充実

<p>11 安全と事故防止</p> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】11安全と事故防止では、保護者・生徒・教職員の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が90%を超え、高い水準を維持している。今後も安全教育の推進に取り組んでいく。</p>

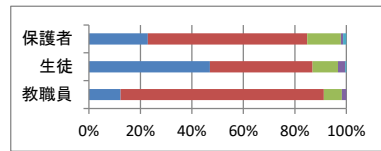
②最適な学習環境の整備

<p>12 施設・設備の安全管理</p> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
<p>【学校から】12施設・設備の安全管理では、保護者と教職員の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合がいずれも90%を超え、生徒は昨年度とほぼ同じで81%に留まった。</p>

③家庭・地域社会との連携強化

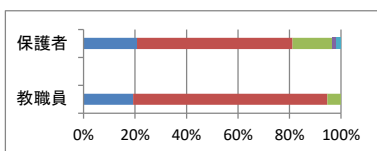
13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

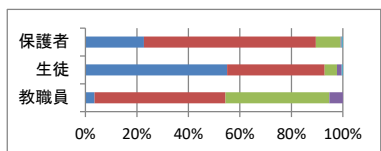


【学校から】13教育方針・目標の理解では、保護者の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、昨年度より向上し80%を超えた。14家庭や地域との連携協力でも、同様に保護者の割合が80%を超えた。以上のことから、学校通信や学級通信、安心メール等での情報提供が保護者の理解や協力体制に大きく繋がっていると感じる。今後も様々な機会を捉えて、情報発信を行っていく。

⑧本校の教育

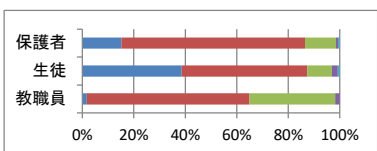
15 挨拶・コミュニケーション

子どもは、気持ちの良い挨拶や他の人とのコミュニケーションができていますか。



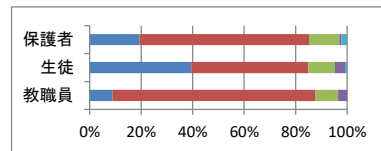
16 学校教育目標

子どもは、気づき・考え・行動することができていますか。



17 主体的な活動

学校は、子どもの主体的な活動の場を提供していると思いますか。



【学校から】15挨拶・コミュニケーションでは、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、保護者・生徒ともに昨年度同様90%を超える高い割合を示したが、教職員は13%低下し54%に留まった。16学校教育目標でも同様の傾向がみられ、保護者・生徒の割合は高かったものの、教職員に割合は65%と昨年度に比べて6%低下した。17主体的な活動では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、保護者・生徒・教職員ともに昨年同様85%を超えた。以上のような結果から、教職員の評価が特に低かった、気持ちの良い挨拶やコミュニケーション能力の育成を教育重点項目として取り組んでいく。

来年度の具体的な取り組みについて

- 豊かな心を育む教育の推進として、①「仲間づくり」「ルールづくり」活動、学校行事、生徒会活動等を通して、望ましい集団づくりに努める。②道徳教育人権教育等とおして「心の環境整備」と「校舎内外の環境整備」を図る。③キャリア教育を推進し学びに向かう力の育成に努める。
- 確かな学力を育む教育の推進として、①導入されたタブレット端末を用いたわかりやすく楽しい授業改善に取り組む。②ノーチャイムを誇りとし、学習の合言葉「にしきがおか」の定着を図る。③「授業づくりの5つ視点」を根底に据え授業研究会と個別面談、及び授業力向上支援員等の活用を通して、教職員のスキルに応じた授業力の向上に努める。
- いじめ・不登校などに対する相談支援体制の充実として、①生徒とのかかわりを密にし、日常生活や生活ノート・アンケート等により、生徒の変化やいじめ事象の発見に努める。②全ての教科を通して、対人関係のスキルアップに努める。③支援が必要な生徒には、クラスの生徒や保護者の理解を得て、情報を共有し、全職員で対応する。④不登校対策サポーター・SC・SSWと連携して、継続かつ丁寧な対応を心がける。
- 子どもたちの身近な安全対策の充実として、①日常的・定期的な安全点検活動を強化・徹底する。②学期1回の避難訓練を充実させる。③SNSや自然災害熱中症対策などいろいろな場面や状況で、自分の命は自分で守ることの大事さを理解させる。
- 挨拶・コミュニケーション能力の育成として、教職員が校門や教室で、元気な挨拶で生徒を迎え、あらゆる機会に生徒を認め、誉める。
- 主体的な活動として、学年行事や学校行事等で生徒が活躍できる場を設定し、生徒が主体的に計画・立案・運営できるようにする。
- 働き方改革として、①時間外に実施される会議の開始時刻を早め、終了時刻を会議前に設定する。②面接や声かけ等で個々の負担の状況を把握し、業務を複数で取り組む等の工夫を図る。③定時退勤日を毎月、設定し前日・当日に管理職が退勤を促したり、掲示物での意識化を図る。④最終退勤時刻の意識化を図り月毎に教頭が集計し改善を図る取り組みを行う。

学校関係者評価

- 「仲間づくり」活動に対して先生方の生徒への言葉かけ、やさしさを感じられる学校である。
- いじめ防止にも力を入れておられる事も保護者の安心・満足につながっていると思う。
- 地域の様々なイベントに多くの生徒さんに参加していただこうれしく思う。
- 学校参観の際に関わらせていただいたクラスの皆さんも礼儀正しくとても好感が持てた。
- アンケート結果で、すべての面で高い評価が得られており、先生方の真摯な取り組みの成果であろうと思う。
- 生徒の授業を参観するとALTやデジタル教材などがあり、多様な学びがあると感じた。相対的に学校教育は優れていると感じる。しかし、多様化した教育の背景で授業についていけない生徒もいるのではないかと感じた。
- ステップアップルーム(不登校支援室)など、生徒がいろいろな学び方を選べる体制がよいと思った。不登校支援のモデル事業が終わり不登校支援制度がなくなれば、職員だけで対応するのは難しいと思った。
- △人員や予算等に限られる現状では、すべての側面で完璧を目指しながらも、優先度を考慮した取り組みを進めることも検討すべきではないか。
- △挨拶をよくするためには、保護者の啓発や小学校との連携が必要だと感じる。